

バクシーシ山下

VS

得來漫畫大總統
根本敬

シリーズ **男の対談**

山谷のドヤ街のホームレスに男優をやらせたり
包茎男のチンポの皮をAVギャルに喰わせたり
ゲロはかけるわ監禁するわ女の聲も剃りあげて
ヌケないAVを攪り続ける特殊AV監督登場!!
迎え討つは特殊漫画界に君臨する帝王・根本啓

演出とか出来ない
ですよ

根本敬（以下根本）

起った誘拐事件、あつたじやない

バクシーシ山下
以下山下
ああ

「ボテ」に對する階級に出たオヤジなん

か死んでますけどね（笑）

根本 あの人、千葉さんだっけっ

後死んだんでしょ？
大田でも、

山下 山谷で見つけて 中で連れてった

栗鴨のスタジオカワイきなり　じゃあ

根本 地べたにたがらうとも寝られる

山下 例えはボクが野も、はたは二上



根本敬

1958年 札幌区に生まれる。
いわずとされた特殊演劇大競演。
「人生解毒止場」を演泉社よりデビュー。

「人生解毒止場」を演泉社よりデビュー。

根本 札幌区に生まれる。いわずとされた特殊演劇大競演。

根本 札幌区に生まれる。いわずとされた特殊演劇大競演。

根本 札幌区に生まれる。いわずとされた特殊演劇大競演。

根本 札幌区に生まれる。いわずとされた特殊演劇大競演。

根本 札幌区に生まれる。いわずとされた特殊演劇大競演。

根本 札幌区に生まれる。いわずとされた特殊演劇大競演。

根本 札幌区に生まれる。いわずとされた特殊演劇大競演。

根本 札幌区に生まれる。いわずとされた特殊演劇大競演。

根本 札幌区に生まれる。いわずとされた特殊演劇大競演。

根本 札幌区に生まれる。いわずとされた特殊演劇大競演。

根本 札幌区に生まれる。いわずとされた特殊演劇大競演。

根本 札幌区に生まれる。いわずとされた特殊演劇大競演。

山下 札幌区に生まれる。いわずとされた特殊演劇大競演。

夢を追い求めて

ウニコになった

山下 ポップ音楽。木下はたのスケ

山下 ポップ音楽。木下はたのスケ

山下 ポップ音楽。木下はたのスケ

山下 ポップ音楽。木下はたのスケ

山下 ポップ音楽。木下はたのスケ

山下 ポップ音楽。木下はたのスケ

山下 ポップ音楽。木下はたのスケ

山下 ポップ音楽。木下はたのスケ

山下 ポップ音楽。木下はたのスケ

山下 ポップ音楽。木下はたのスケ

山下 ポップ音楽。木下はたのスケ

山下 ポップ音楽。木下はたのスケ

4 **VOLUME 65**
EPGARO

(KOMA-GARO) VOLUMES EDITED BY Ch. SHIRATORI (GARO)
5 Ke. KOYAMA (Office NIRA) 1995 SE RINDOH

◆先月号「いまGA」の「91疑案」に掲載した、懐かしき「お便り」コーナーのコーナーが、この号でついに結ばれた。このコーナーが、この号でついに結ばれた。このコーナーが、この号でついに結ばれた。

宇治市の匿名希望の作品



●今の中から判を導入してみた。これも期待の新人、マウヤ。
 【K】おいおい、お前、いままったたる！ 濡れんよな今。何事も無かったようにパンシ一寝するな。たのむぜボント。
 【S】実は今日一番笑ひ、かつまたインバクトの強い一作であつた。彼の手のむりガ一みだいて変な。うーん、ナイス。



●アンベクとしては珍しく解りやすい作品。いや、たがそれだけではないのかも



●また、でも大判は新人「ちゃん、ベネス」も考るように、
 (1) 強引なキャラ、あいつ、1人きり、個人主義、
 解るような頭にならな様か、目がいや、モチケンチ、それで、
 様の大判は、モトイは、(2) 1人、何かに、
 のかい、や、
 事をする気、なれない、
 本作は、強力な筆線、
 付けて、物と物、
 下、



● さびきのじろうちゃん。女の子は姓か名か？
+ 名がモミコか？タイトレが読めないぞ。



●こっちは笑った。なぜ全裸で？ とこっちは
を なし、 揺めるかなあれを、さすが蜷川 師



●ピンス、ミッドサ、宮に米系
ミッドサがある、ミッドサは、ミッドサ

八王子市のしんなりの作風

月刊ガロアンケート用紙

◆恐れ入りますが当用紙を切り取り又は「コピー」の郵送又はFAXにて送信下さい
◆記入されたい箇所は、空欄のままでも結構です。

お名前	フリガナ	氏名欄	生年月日	年 齢	性 別	ご職業/学校/学年
		可 不可			男・女	
住 所	〒		都 道 府 県	区 市 郡	区 町 字	
購入号数1995年		購入された書店名		月刊ガロをお読みになってどのくらいですか。		
10月号		地名		書店		

今後の誌面作りの参考にさせて頂きますので、下記アンケートにご協力ください。

●今月号「読んで」の漫画・記事コーナーを教えてください。（希望の場合は具体的に）

- 1
- 2
- 3

●読んで「なか」の漫画・記事コーナー

●ガロの「なか」購読している雑誌名（漫画以外でも、雑誌名）

●今後誌面で特筆し「欲し」企画・内容・雑誌、映画、漫画、人物、音楽等 を教えてください。（その理由も）

●当誌の感想、または疑問点、意見、要望などありましたら何れもどうぞ。（内容は匿名で）月刊ガロ誌上 随時掲載される事があります。

ねこぢるって誰？



黒川 創

先日、スーパリーの文具売り場をうろついていたら、「カブトムシのセツト」が売られていた。直方体のプラスチック・ケースに、おがくずが敷かれ、なかにカブトムシが雌雄一匹ずつ入っている。たしかに「セツト」には違いないが、シャープペンシルやノートと同じ棚に、カブトムシが文具として売られているというのは、なんか変なかんじだ。

ねこぢるの「ねこ」も、このカブトムシに似ている。作者は、生身の「ねこ」なんかぜんぜん可愛がっていないし、たぶん、ベクトルシヨップとさえ、ほとんど縁がないだろう。むしろ、ねこぢるの「ねこ」には、西友かダイエーの文具売り場あたりが、お似合いなのではないだろうか？

スーパリーで、七六〇円プラス消費税三%でカブトムシを買ってきて、夏休みのあいだ何かエサをやって、最後にぶちぶちと六本の節足がちぎっていく。そついでに、ねこぢるのマンガにもある。つまり、これが、学校のワサキ小屋のワサキたちを血まみれにするまでたきつけたリプ

ールに投げ入れてしまふ少年・少女たちの白昼夢のような心情を、いまでも共有しているのだろうか。

ところで、私はこの作者・ねこぢると、何度か会ったことがあるのだが、あれが「ねこぢる」の正体であったかどうか、実はいまでもつてはつきりしない。何度か会ったとき、「ねこぢる」は二〇歳代なかばの小柄な可愛らしい女の子の皮をかぶっており、パ・ボンを好み、酔っぱらうて、私はそのダンタンと称する人物と、「彼女」を左右からぶらぶらとぶらぶら下げて駅まで運んだこともあるのだが、それがホンモノの「ねこぢる」であったかどうか、どうも明瞭ではないのである。

作品についてはすでに「ねこぢるうどん」第一巻の「解説」に書いたので、このころにだけ記しておく。

私に、「ねこぢる」との縁が生じたのは、たしか四年ほど前のことだ。ある業界紙にコラムを連載する機会があり、そこに毎回つけるイラストの描き手を探そうというところになって、私は「ガロ」に「ねこぢるうどん」なるものを掲載していた未知のマンガ家を、担当編集者に推薦したのである。担当編集者は、そのマンガを見て「わかりました」と私に言った。でも彼は本心では、あまり「わかり」たくなかったらしい。なぜなら、そのあと、担当編集者はすぐにねこぢるに電話を入れて、仕事の件を依頼して、加えて「あなた、ねこぢか描けなないわけじゃないんでしょよね」とかイヤミなことを言つたらしいのだ。

私には、担当編集者の不安がわかる。なぜなら、コラムの掲載は週二回もまだまな雑多な話題を取りあげてのものである。にもかかわらず、かんじんのイラストレーターの作品は「ねこぢるうどん」しか見られていない。そこていきなり「ねこぢか描けなないわけじゃないんでしょね」と発言となるわけだが、そんなことおまえに言われる筋合いはねえよ、と思うのが、描き手の当然の気持ちだろう。元はと言えば、私が悪いのだ。

そんなわけで、担当者との打ち合せの時間、所定の場所に、ねこぢるは現れなかったらしい。ただし、やや遅れて男の「ねこぢる」を名乗る人物がやってきた。それが山野一で、彼はこれまでのイラスト作品をささつと要領よく見せて、「じゃ、そういことだ。」とこの連載の仕事を決めてしまった。——というような経過をたどって、私はそれから一年、山野一のイラストと組んで、無事その連載の仕事を終えることができたのだ。

というときは、このとき、山野一は、サキまがいの仕事の交渉をしたのだろうか？

そんなことはないわけで、実はこの山野一、例の「ねこぢる」らしき女の子の夫で、その仕事のストーリー作り補助ペン入れ下書き、スクリーン・トン貼つけ係、および海外担当のような受け持ちをしてきたらしい。つまり、「ねこぢる」というのは個人名というより一種の屋号で、その「ねこぢる」の成分には一〇%か二〇%、

山野一が配合されているのだと考えられなくもない。それは、それでいいけれども、だとすれば、あの「ねこぢる」の主成分らしき女の子、あの女性だけを呼ぶときには何と呼べばいいのかという、脇役の問題に戻ってきてしまふわけである。

私は、あの女性と何度か食事をしたし、お酒も飲んだ。私は、そんなとき、彼女のことを「ねこぢる」もしくは「ねこさん」と呼ぶ。でも、どうもその「ねこぢる」という言葉には、二〇%くらい山野一が含まれているようで、落着かない。いったい、目の前の彼女、この本体が、それ自身だけの名前をもっているのかどうか、私は彼女だけを呼ぶことができるのかどうか不安になってくるのだ。

私は、ひどいときには酔っぱらって、彼女の家に泊めてもらったこともある（もちろん、そのときには二〇%の山野一成分付き。そんな夜には、二〇%の山野一成分は、八〇%の主成分に向かって、なにか別の名前を呼びかけてもいたのだが、どうも、その呼称が、いつまでも私には覚えられないのだ。

というわけで、いまでも彼女は私にとっても「ねこぢる」である。それでいいのだ。でも、私が彼女のことを「ねこぢる」と呼ぶたび、自分の頭のうしろのほうでは（……）ただし、二〇%の山野一（成分抜き）と、落ち着かないささやきが聞こえる。ちよつとイライラする。

いったい、彼女は誰なのだろう。

ねぢぢねんど・ねぢぢる

絶賛の第1弾、重版決定！

★装幀 ミルキイソベ

★絶賛発売中！！

★四六判上製 定価1000円



青 林 堂

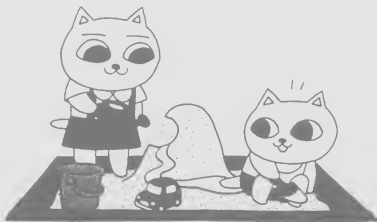
ねぢぢねんど 第2巻・ねぢぢる

待望の第2巻いよいよ発刊！

★装幀 ミルキイソベ

★絶賛発売中！！

★四六判上製 定価1000円



青 林 堂